

フードツーリズムは継続した観光資源になるのか

—新型コロナウイルスが与える影響—

氏名 緑川歩花

フードツーリズムは観光資源として継続していくのか。

ここでいうフードツーリズムとは、「地域ならではの食・食文化をその地域(その土地)で楽しむことを目的とした旅」に加えて、「観光の一環として、地域の飲食店や有名店を巡ること」をいう。先行研究で、フードツーリズムが観光資源として地域活性化の役割を担っていることはすでに明らかになっている。しかし、フードツーリズムが観光資源としての役割を果たさなくなるという予想での研究の例はない。

そこでフードツーリズムは観光資源として継続していくかを明らかにするために旅行会社や観光庁、国土交通省などのデータをもとに分析を行った。コロナ禍では、旅行で重視するポイントとして地域の味覚を楽しむことより、自然やリラックスできることを重視する傾向が見られた。また、コロナ禍でお取り寄せグルメに需要が高まり、自宅で気軽に地域の味覚を味わえる環境がフードツーリズムに影響があることも分かった。さらに、コロナ禍で部屋食に人気を集めたことにより、旅行先での食事に変化が生まれた。

その結果、新型コロナウイルスの影響により、旅行の目的や旅行で消費する観光商品が変化していき、フードツーリズムは観光客の需要に沿わなくなり観光業としての経済効果は見込めなくなることが分かった。

これからさらに新型コロナウイルスの感染が拡大してくかもしれない可能性や将来別のウイルスや感染症が流行した際にどのように対応するかをしっかりと検討する必要があると考える。また、今回の観光業にもたらした変化を新たなフードツーリズムのあり方として今後に活かしていくことが望まれる。